１．南丹市の高齢者等を取り巻く状況

南丹市は、面積６１６．４ｋｍ^2、そのうち森林が８８％を占め、北部は日本海に注ぐ由良川が、中・南部は太平洋に注ぐ桂川が流れ、その間にいくつかの山間盆地が形成されています。

本市の高齢化率は、平成２４年に３０％を超え、平成３０年１月末では、３４．６％、平成３１年１月末現在では、３５．１％となっており、年々上昇しています。また、平成２９年１０月時点の全国における高齢化率は２７．７％ですが、本市の同時点における高齢化率は３４．５％と、全国の平均を大きく上回っている状況です。

本市の人口については、緩やかに減少しており、平成２５年の３３，６１０人から平成２８年には３２，４５２人、平成３１年１月末では３１，９１３人となっています。将来人口は、平成３０年３月に策定しました高齢者福祉計画・第７期介護保険事業計画策定に伴う人口推計において、６年後の２０２５年には２９，３１５人、そのうち　６５歳以上の高齢者人口が１０，７６２人、高齢化率は３６．７％になると予測しています。

平成３１年１月において、本市のひとり暮らし高齢者世帯は２，９３６世帯、全世帯数に占める割合は２０．７％となっており、また、高齢者のみで構成する世帯は２，０８４世帯で、これらの世帯を合わせると本市の世帯数の１／３以上を占めています。

高齢化の進行等にともない、特に山間地域では近隣高齢者同士での助け合いが難しい状況になっており、自分のことや自分の家族のことが精一杯で、隣人を支える力が無くなってきている状況があり、地域での生活を続けていくことが困難な集落、いわゆる限界集落が急速に増加しています。このことは山間地域のみの現象ではなく、市内の中心地でもその傾向がみられるようになっています。

また、高齢者等の生活そのものの維持も困難となっている状況も見られ、山間地域の交通手段は自家用自動車が主で、高齢者にとっても通院や日常生活物資の確保といった在宅生活を支える重要な交通手段であります。しかし、加齢等にともない自動車の運転ができなくなる人も増え、高齢者の移動手段が無くなっている方が増えている状況です。

これらの高齢化の課題に対して、本市としましては総合的な対策が必要となっており、特に高齢者の生活を支える移動手段の確保は重要なものとなっています。

南丹市の高齢者の状況

H31.1.31

		園　部	八　木	日　吉	美　山	南丹市全体
人　口	男	7,821 人	3,428 人	2,348 人	1,801 人	15,398 人
	女	8,090 人	3,911 人	2,519 人	1,995 人	16,515 人
	計	15,911 人	7,339 人	4,867 人	3,796 人	31,913 人
６５歳以上	男	1,951 人	1,252 人	871 人	756 人	4,830 人
	女	2,588 人	1,668 人	1,106 人	1,006 人	6,368 人
	計	4,539 人	2,920 人	1,977 人	1,762 人	11,198 人
高齢化率		28.5%	39.8%	40.6%	46.4%	35.1%
７５歳以上	男	916 人	632 人	422 人	396 人	2,366 人
	女	1,501 人	1,013 人	645 人	651 人	3,810 人
	計	2,417 人	1,645 人	1,067 人	1,047 人	6,176 人
後期高齢化率		15.2%	22.4%	21.9%	27.6%	19.4%

H31.1.31

世帯	園　部	八　木	日　吉	美　山	南丹市全域
全世帯数	7,055 世帯	3,188 世帯	2,132 世帯	1,788 世帯	14,163 世帯
６５歳以上単身世帯	1,238 世帯	714 世帯	487 世帯	497 世帯	2,936 世帯
高齢単身世帯率	17.5%	22.4%	22.8%	27.8%	20.7%
高齢者のみの世帯	801 世帯	566 世帯	377 世帯	340 世帯	2,084 世帯
高齢者のみの世帯率	11.4%	17.8%	17.7%	19.0%	14.7%

２．移動制約者の現状

平成３１年１月末現在で介護保険の要介護認定を受けている方は２，３７８人、平成３０年３月末現在で身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者健康福祉手帳の交付を受けている方については３，５１８人で、前年の平成２９年３月末時点の３，５０２人からは増えている状況です。

本市におきまして、移送サービスを必要としている移動制約者は、在宅で生活されている要介護認定者、障がい者のうち肢体不自由障がいの方、視覚障がいの方が主となっています。

また、市の施策として障がい者の外出支援を目的に、自家用有償旅客運送とは別に福祉タクシー利用券の交付及び重度重複障害者等移動支援事業を行っています。

福祉タクシー利用券については、平成２９年度の利用状況は、肢体不自由の方、視覚障がい者、知的障がい者、内部障がい者であわせて１６８人へ交付を行っており、利用実績は１，０３６，０００円となっております。

重度重複障害者等移動支援事業については、平成２６年８月から事業が開始され、利用状況は身体障害者手帳１級又は２級、療育手帳Ａ判定、精神保健福祉手帳１級のいずれか２つ以上を所持している方３名を利用登録しています。平成２９年度の送迎件数は４件、利用額は、１０１，３６０円となっております。

○南丹市福祉タクシー券交付状況

	平成２８年度	平成２９年度
交付人数	１３５人	１６８人
利用額	１，０３６，０００円	１，６５９，５７６円

○重度重複障害者等移動支援事業利用状況

	平成２８年度	平成２９年度
登録人数	３人	３人
送迎件数	６件	４件
利用額	１５０，８８０円	１０１，３６０円

南丹市の介護認定者の状況　　H31.1.31

介護認定数	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計
65 歳～74 歳	32 人	54 人	12 人	39 人	18 人	25 人	17 人	197 人
75 歳以上	128 人	446 人	242 人	459 人	397 人	269 人	204 人	2,145 人
40 歳～64 歳	1 人	12 人	3 人	5 人	7 人	4 人	4 人	36 人
計	161 人	512 人	257 人	503 人	422 人	298 人	225 人	2,378 人

障がい者手帳等所持者の状況

○身体障害者手帳

	29.3.31	30.3.31
１級	６７２人	６６６人
２級	３３７人	３５０人
３級	４５５人	４５３人
４級	９０５人	８８３人
５級	２３９人	２５８人
６級	２５６人	２６３人
計	２，８６４人	２，８７３人

	視覚	聴覚・平衡	音声・言語	肢体	内部	(内部の内、腎臓)	計
29.3.31	１９３人	３０３人	４１人	１，４３９人	８８８人	１１９人	２，８６４人
30.3.31	１８９人	３１６人	４１人	１，４３４人	８９３人	１２５人	２，８７３人

○療育手帳

	１８歳未満		１８歳以上		合計	
	29.3.31	30.3.31	29.3.31	30.3.31	29.3.31	30.3.31
Ａ（重度）	１３人	１１人	１２７人	１２２人	１４０人	１３３人
Ｂ（軽度）	４１人	４２人	１８２人	１８１人	２２３人	２２３人
計	５４人	５３人	３０９人	３０３人	３６３人	３５６人

○精神障害者保健福祉手帳

	29.3.31	30.3.31
１級	２３人	２１人
２級	１４５人	１４３人
３級	１０７人	１２５人
計	２７５人	２８９人

３．南丹市における公共の交通機関

本市における道路基盤は、北部に国道１６２号、南部に国道９号、国道４７７号、国道３７２号、京都縦貫自動車道が走っており、区域内を走る各府道が国道へのアクセス道路となっています。

また、鉄道については、本市の東西をＪＲ山陰本線が走っており、この山陰本線と市内の路線バス及びタクシー事業者により公共交通ネットワークが形成されています。

路線バスとして、京阪京都交通、ＪＲバス、南丹市コミュニティバス「ぐるりんバス」、市営バス及びデマンドバスが市内を運行しております。

デマンドバスについては、バスが通っていない地域を中心に、平成２４年から日吉地区および美山地区で、八木地域では平成２５年からタクシー車両を使い、予約制バスとして運行しています。このデマンドバスについては、出来るだけ利用しやすいような場所にバス停を配置することやフリー乗降に対応するなどの工夫をしています。

また、車両については、通常バス路線はノンステップバスやワンステップバスを導入し、高齢者の方や身体に不自由を感じている方などが利用しやすいように配慮を行っています。

タクシー事業者については、市内に７事業者が運行されており、園部・八木地域には株式会社京都タクシー、ＮＰＯ法人京都福祉センター、南丹介護タクシー、南丹タクシー、アンシン福祉タクシーがあります。園部・八木地域で運行されている車両は２５台で、内、福祉車両は４台となっています。日吉・美山地域では株式会社京都みやび交通、谷タクシーがあり、日吉・美山地域で運行されている車両は３台となっています。それぞれの事業所において高齢者等に配慮いただいた運行を実施いただいており、また、一部の事業所においては、車いす等対応の福祉車両による対応をされており、市民の重要な移動手段となっています。

市の東西を貫通するＪＲ山陰本線は、八木駅、吉富駅、園部駅、船岡駅、日吉駅、鍼灸大学前駅、胡麻駅と７駅あります。１日の乗降者数は、平成２８年度の平均では２，８３１人となっております。このＪＲ山陰本線は、京阪神と京都府北部とを結ぶ大動脈として、交通網の要となっており、ＪＲ嵯峨野線京都・園部間では複線化され、利便性が向上しております。また、車いす対応エレベーターが設置されている駅舎もありますが、その他の駅舎については、車いすで移動しやすいバリアフリー化がされておらず、高齢者や障がい者にとって利用しやすい施設となっていない現状があります。

このような状況の中、高齢者等がいつまでも住み慣れた地域で安心して自立した生活を続けられるよう、引き続き高齢者の自立支援、社会参加の促進、安心と支え合いの仕組みづくりに取り組む必要があります。特に高齢者や心身に障がいをお持ちの方の定期的な通院については、自身の疾病の治療、健康管理のために必要不可欠なものとなっており、本市における地形的な要因と高齢化が急激に進んでいるなどの社会状況の中、交通弱者への支援が必要となっています。